

地域情報

スイカ退緑えそ病について

(一社) 熊本県野菜振興協会菊池支部

ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）は、メロンやキュウリでは退緑黄化病として大きな被害が発生していますが、スイカでは被害は軽微というのが一般的でした。

これは、本県スイカでは抑制や促成の作型が大部分を占め、生育前半が低温期にあたるため感染しないか感染しても生育後期の感染であるためと考えられます。

しかし、7月育苗、8月定植の作型では、CCYVによるスイカ退緑えそ病の大きな被害が発生しました。被害としては、多数の葉の枯れ上がり、スイカの肥大不足、糖度不足、裂果などがありました。

以上から、必ずしもスイカのCCYVによる被害が小さいわけではなく、スイカの生育初期～交配期までにCCYVを保毒したタバココナジラミから吸汁された場合は、被害が大きくなることが示唆されました。

